

大阪大学リ・スキリングプログラム ディープテック・ビジネス実践（対面）

～研究者 × 企業人材で「事業化」を実践する
7Days～

研究者 × 企業人材で「事業化」を実践する7DAYs

- 知識を学ぶだけではなく、異なる専門性を持つ参加者がチームとなり、7日間を通じて研究シーズから事業仮説をつくり上げる実践型プログラム。

研究者



- 研究シーズ
- 技術／専門性
- 知財
- 研究ネットワーク

研究者 × 企業人材

異なるバックグラウンドを持つメンバーでチーム形成

企業人材（新規事業・R&D）



- 顧客理解
- 市場
- 事業開発
- 企業ネットワーク



① TEAM

研究者と企業人材が
混成チームを形成



② PRACTICE

実際の研究シーズを題材に
事業化を実践



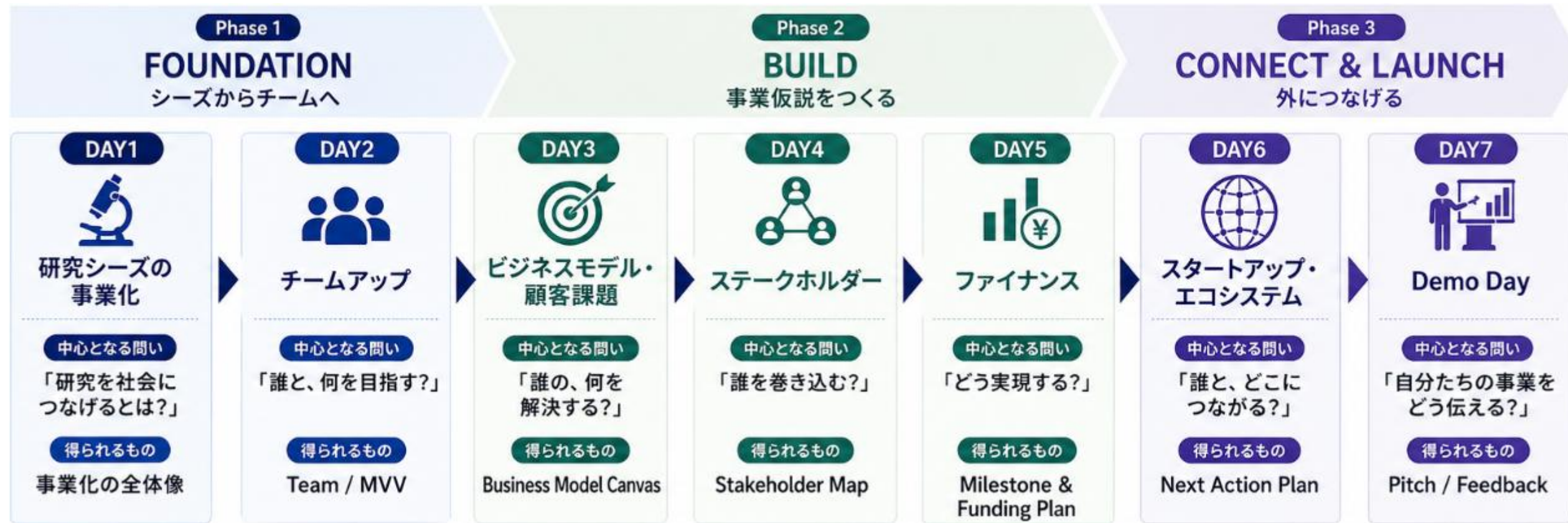
③ CONTINUITY

各Dayの成果物を
次のDayへつなぎ、事業仮説を育てる

「講義を7回受ける」ではなく、7DAYsで1つの事業仮説を作るプログラム

7Daysで「研究シーズ」を「事業仮説」へ

- 技術シーズ → Team作り → 事業仮説 → ステークホルダー → ファイナンス → Ecosystem → DemoDayのプロセスを経て、チームで事業化を一通り経験する。



毎回の講義や宿題のアウトプットが、次のDAYのインプットになる構成で**事業作りの流れを体験できる**

DAY1-3：シーズから「チーム」と「事業仮説」をつくる

- 研究シーズを起点に、異なるバックグラウンドの参加者がチームとなり、「誰の、どんな課題を解決するのか」まで具体化する。



研究シーズ

研究成果・技術の可能性を理解し、事業化の第一歩を踏み出す



共通目的を持つチーム

異なる専門性を持つメンバーが出会い、チームとしての方向性を定める

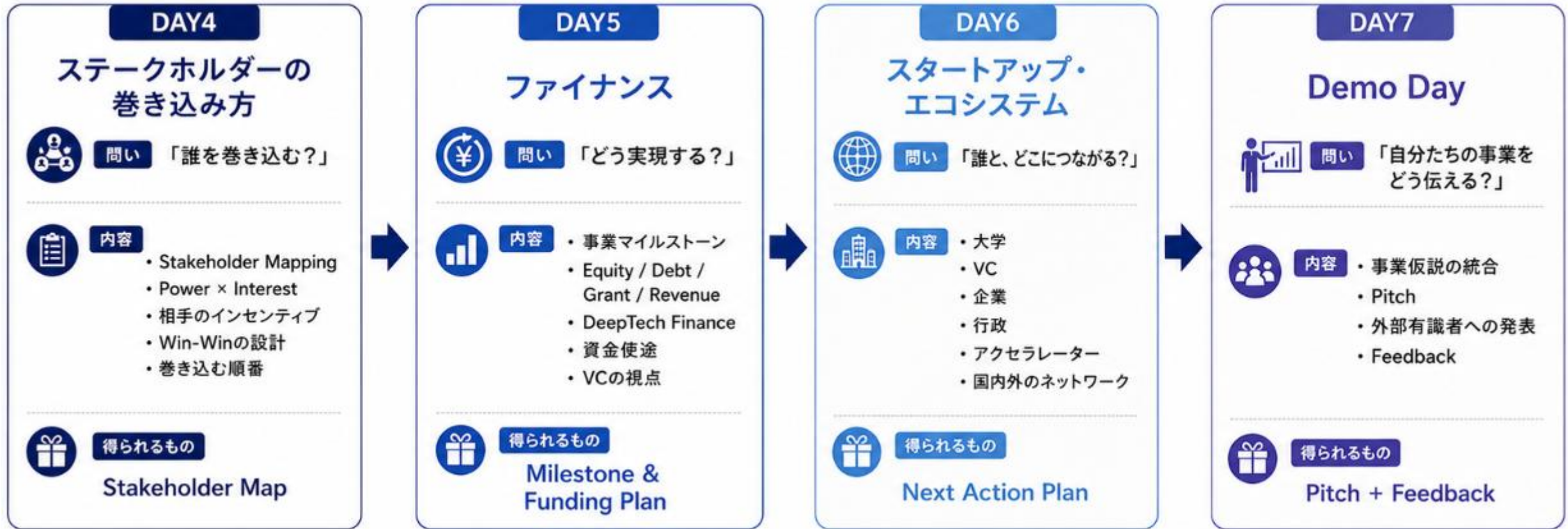


顧客起点の事業仮説

誰の課題をどう解決するのかを明らかにし、事業の仮説を具体化する

DAY4-6：事業仮説を「実現可能な計画」へ

- 事業モデルを描くだけで終わらず、必要な仲間・資金や外部のエコシステムまで進め方を具体化する。
- DAY7は集大成として各チームのピッチを実施。



「事業アイデア」から「実際に動き出せる事業仮説」へ

プログラムを通じて得られるもの

- 「知識」を得ることもできるが、それ以上に、事業化の**経験**、やりぬいた**チーム**、具体的な**事業仮説**、そして次につながる**ネットワーク**を得ることができる。



「学んで終わり」ではなく、「**次の一步に繋がる体制**」持つことができる